紙面から

教育随想
「古着に寄せる思い」
愛知教育大学名誉教授
中村よし子　氏

この人に聞く
不吹長寿会会長
山本　邦彦　氏

特集
岡崎市環境調査センター

師弟同行
兵藤　鋭子・中村　享子

フォト・ヒストリー岡崎の教育
土俵開き（昭和五十七年）

12月号

平成10年12月1日
発行／編集
岡崎市教育委員会

（こま、まわるかな―井田小）

―教育随想―

古着に寄せる思い

愛知教育大学名誉教授
中村　よし子

最近、心温まる家庭科の授業研究に出合い、子どもたちの生き生きした行動に無限の可能性を感じた。

授業は、五年生の「ふくろを作ろう」である。袋を作る学習の前に学級活動の授業として環境問題に取り組んできた。子どもたちは、何でもいらないものは捨てるものだと思っていた生活行動から、工夫の仕方によっては再利用できることを知り、自分自身の生活行為には無い新たな感動を得た。

家庭では、不要なものは他の人にあげたり、廃品回収に出すことはあっても、リフォームなど一手間かけての再利用は余りしていないのが現状であろう。

そこで、家庭で不要になった衣類や、あまり布などを利用して自分だけのオリジナル袋作りの学習が始まったようである。環境問題の学習意識の高まりが、家庭科の授業に向けられ意欲満々の様子が行動から伺える。それぞれ持ってきているものが違っているので、自分で考えていかなければならない。トレーナー、Tシャツ、ズボン、スカートなどからいろいろな袋に変身させていくためには、どの部分を袋のどこに使うとよいだろうか思案したであろう。しかし、実に、うまく活用された発想のよさには驚くばかりである。

不用のものが、自分の思いの形にでき、袋として再活用できることは、そのものが生まれ変わって生かされていく思いに愛着を持ったであろう。早く使いたい、見せたい、大事にしたい、などの深い思いが、壊れないように縫いたいという技術に連なっていった。使い易さ、丈夫さなどを確かめて、形や縫い方を工夫した学習へと発展していった。

古着といっても、新しい布との出合いと違い、妹のスカート、自分が着ていたトレーナーなど、その古着には、それなりの思いがあり、着ていた当時の生活、暮らしの歴史を感じながら作業をしていたのか、古着にいのちを吹き込もうという意欲を感じた。それは、決してきれいとか美しいとかいう布ではないが、子どもたちは、より高い価値を求めて追究していた。

既製品の時代、ブランド品に流されている時代であるが、子どもたちは、素朴なものへの思いを失ってはいない。また、自分の思いが形として表現できる喜びを味わっている。「ものを大切にしたい」「お金をかけないでオリジナルなものができる」と言った子どもの目は輝いていた。

ちなみに、このクラスには、ごみ箱が置いてない。

（なかむら　よしこ）

納得の拍手

生活科指導員
増澤　徹

校庭を見下ろす裏山の森の中、子供たちは思い思いの場所に散っていく。小さなかごには、自分で集めた木の実や木の葉、道具、そして自分の作る「あきのたからもの」の設計図。広場の一角には、穴開けコーナー、糸通しコーナー、材料コーナー、道具コーナーなど、製作を支える環境作りもなされていた。穴を開ける子、接着する子、ひもを結ぶ子など、どの子も目的意識がはっきりしているのでちゅうちょなく製作に取り組んでいる。

やじろべえを作るA君。先生の支援が必要と思われる子の一人である。どんぐりに穴を開けようと、油粘土の上にどんぐりを乗せたまでは良かったが、きりを使う手が心もとない。すかさず先生が実演しながら粘土にしっかり固定するよう指示。見事なタイミングであった。

ふるさとシリーズ

この人に聞く

不吹長寿会会長

山本　邦彦　氏

「不吹という地名は、年寄りから聞いたところによると、山に囲まれていて風が吹かないということからきている。」

このように語られる山本さんは、不吹長寿会歴史研究グループの中心として、平成九年に「不吹の歩み」という本作りに携われた。この本は、長寿会の人々が不吹の歴史を聞き取り調査や文献で調べたものを自分たちの手でまとめたものであり、不吹の全戸に配られた。

「この本を出して、みんなが不吹に住んでいるという意識を持つようになってきた。不吹という所は入植者の集まりで、生きることが精一杯の生活であった。そのため住民のつながりは少なかった。」

明治四十五年、不吹に最初の入植者があり、戸数二戸でスタートした。その後、徐々に入植者が増えたが、本格的に発展したのは、工場ができたことと環状線ができるなど、交通網が整備されてからのことである。昭和六十三年に不吹町として独立し、この時の戸数が百六十一戸であった。

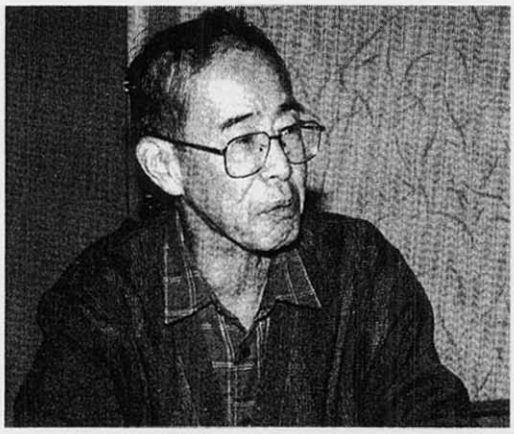
昔は観音様を中心として、町の人たちの交流があったが、近ごろそれが少なくなってきた。そこで老人会が何か行動しようと始めた本作りについて、熱っぽくこう語られた。

「この本を作ることで、今までに消えかかった『おらが町』という意識が、また息を吹き返した。そのことが老人会の結束を高めるだけでなく、何をやるにしても、町の人たちみんなが集まってくることになった。池に石を投げたとき波紋が起こるように、一つのことをすることで、みんなの意識が変わってきた。」

老人が手本を見せれば若い者は自然についてくるし、町全体の活力につながってくる。そんな考えで、本作りに始まって、盆踊り、お月見の会を行った。子供たちも参加し、町全体の活動に広がっていったそうである。

「本の中の絵は、子供たちに描いてもらった。そのことで親子が自然に話をしたりして、家庭と地域が一緒になった町の活動になっていったと思う。口で言うのではなく行動で示したい。」

地域の教育力の必要性が叫ばれている折、山本さんたち不吹長寿会の試みや意気込みは、私たちを勇気づけてくれるものであった。



（氏　　名　やまもと　くにひこ
生年月日　昭和六年六月二十四日
住　　所　不吹町十四―二三五）

二つ目のやじろべえに挑戦したA君。突然手が止まった。そして、山に向かって走り出した。気に入ったものがなく、新たなどんぐりを探しに行ったのである。先生の、

「材料がほしかったら採ってきてもいいんだよ。」

の一言を思い出したのである。

完成した二つのやじろべえを交互に試した後、A君はにこっと笑って手をたたいた。自分自身への納得の意思表示であった。それを可能にしたのは、先生の場の設定と周到な計画、何よりも的確な支援であった。

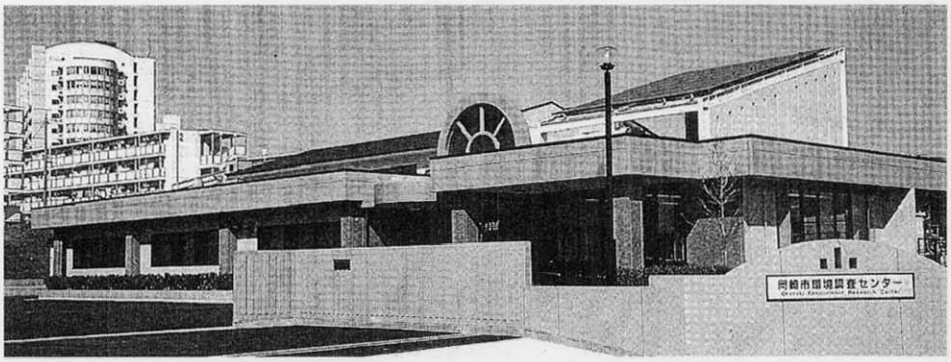
子供の日常の生活圏を学習の場とする生活科において、地域環境を生かして単元を構想することは重要である。学校の裏山で遊び、探し、作った経験を今後学芸会で発表していくという。子供たちの自然離れが進む中、身近にありながら遠かった自然が、名実共に身近になり、新たな「たからもの」になりつつあることを感じた実践であった。

【推薦する専門書】

『生活科授業のすべてが分かる　QAマニュアル』　明治図書

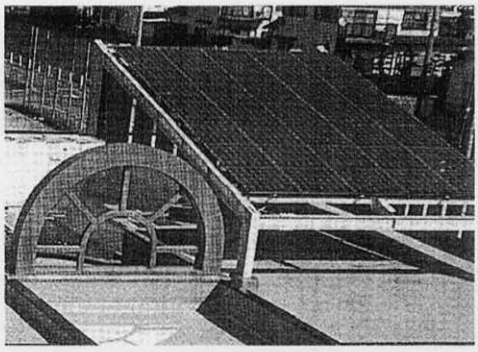
『ちょっとチェックを！生活科　学習指導論』　東洋館出版社

岡崎市環境調査センター
――広がる環境教育――

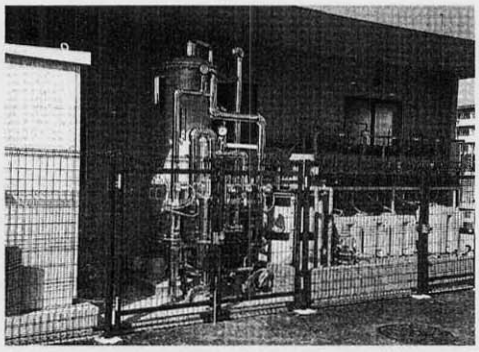


機能概要

- ●水質、大気、土壌などの複雑微量化する汚染物質に対応した高性能分析装置による環境・公害調査
- ●実験用排水路、太陽光発電などによる環境保全のための実験データ収集
- ●環境問題に関する市民意識の高揚を図るための環境学習教室の開催と施設提供
- ●データ処理室による迅速な調査結果の集計と環境解析への取り組み



▲太陽光発電システム



▲高度廃水処理施設

ダイオキシン、環境ホルモンなど最近新たな環境問題が話題になっている。かつて、これほどまでに環境問題に人々の興味関心が向かった時代は無かったのではないだろうか。

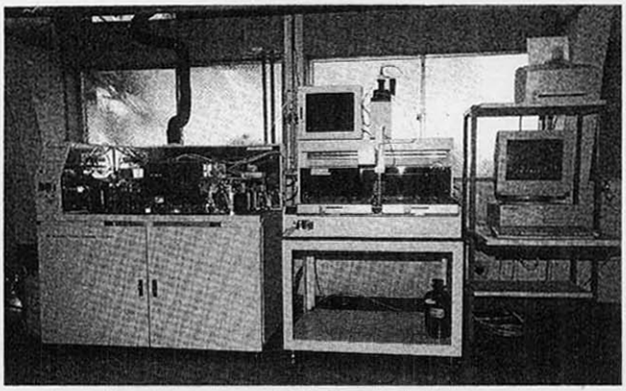
こんな時代の要請の中、平成十年四月、美合町に岡崎市環境調査センターが新築移転された。水質、騒音、土壌などの市全域にわたる環境状況を継続的に把握することを主な目的とし、新たな機器も整備し、より調査の精度を高めようとしている。また、今年は、岡崎市現職教育委員会理科部の協力を得て、市内全域の河川に生息する水生生物の調査をするなど、多様な活動を試みている。

地域社会や学校に開かれた様々な活動も展開しようとしている。

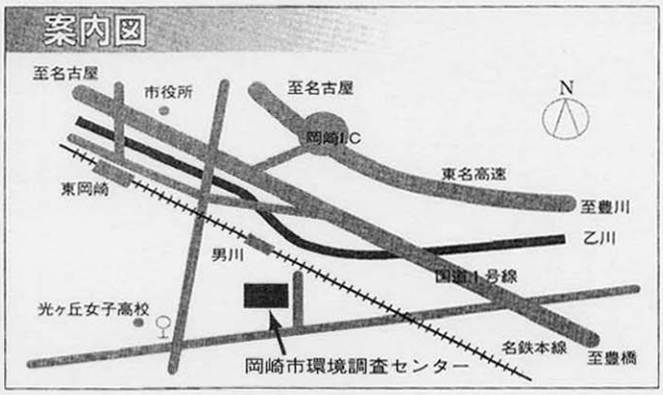
夏休みに、小中学生を対象に環境学習教室を開催したところ、百名の児童、生徒が参加し、川の汚れの原因を追究したり、水質を調べる方法を学習したりした。参加した児童の保護者から「これから人類が真剣に立ち向かっていかなければならない環境問題を、地球の未来を担う若い子供たちに分かりやすく教えてくれるこのような機会をどんどん増やして欲しいです。」という意見が寄せられるなど、好評であった。

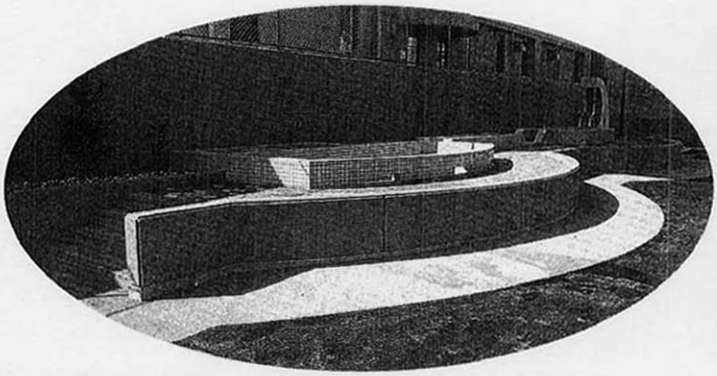
十一月には、大人を対象に「家庭で考える環境教室」を開き、一般市民の環境に対する意識高揚のための努力もしている。

所員さんの話では、来年度には、要望があれば直接学校に出掛けて環境教室を開くなどしたいと話されていた。



▲COD(化学的酸素要求量)自動分析装置





▲実験用排水路

▲原子吸光光度計

環境教育への広がり

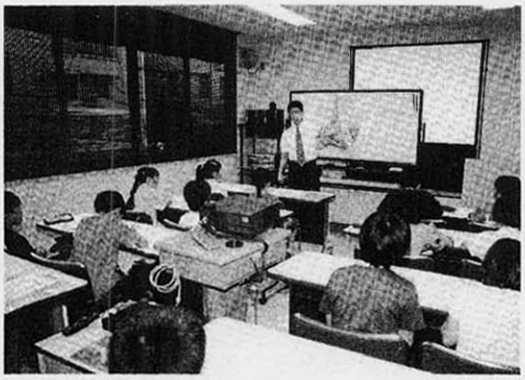
▲ビオトープでの観察

▲理科部の先生による水生生物調査

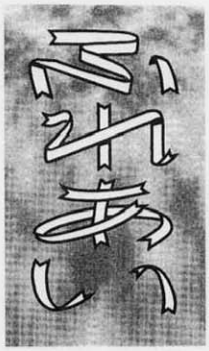
▲水生生物
トビゲラの仲間

教育現場においても、今、環境教育が注目を浴びている。実際に地域に出て調査するとともに、こうした施設を大いに利用して、ダイナミックな教育活動を展開したいものである。

▲家庭排水をチェックする子供たち



▲環境学習教室の子供たち



M子の夏の大会

南中学校
河合　正浩

「いいよ。わたしスタメン落ちでも…。」

夏の大会を前に、ふとM子が漏らした。M子は正直言って上手ではない。あきらめにも思えるこの言葉に私は、

「何を言っているんだ。最後まであきらめるな。」

と励ますしかなかった。

大会直前の練習試合、ベンチにすわるM子の姿は寂しげであった。試合も形勢不利。仲間が守備位置で苦しそうな表情を見せていた。

ふと、M子が、

「先生、ここで私ができることってないかなあ。」

と尋ねてきた。

「それはチームのためにM子自身が考えることだよ。」

しばらくして、M子はスコアラーの横に立ち、

「バッター四番。センターいったよ。」

と大声を出しはじめた。

暑い中での市長杯。M子はスコアラーの横で、守備につく仲間に大声を掛ける。ふっきれたM子の明るい声に、チームの輪も最高潮になった。

彼女の最後の打席は、劣勢の試合の最終回二アウト。絶体絶命の場での代打三塁打であった。試合には負けたが、彼女の表情は満足感にあふれていた。

「今日の三塁打は今まで頑張ってきた成果だね。」

私の言葉にM子はにこっとほほえんだ。私は新チームの中にもM子の心を育てたい。

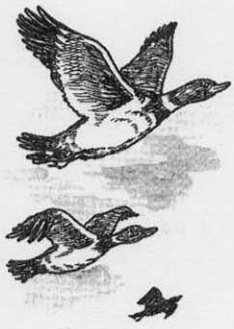
先生の笑顔

梅園小学校
中村　享子

「今度の教務の先生は女の人だって」生平小の職員室で先生のお名前を聞いたとき、中学校で教えていただいた兵藤先生ではと胸が高鳴ったことを今でも覚えています。お目にかかったときの先生の笑顔は、昔と変わらないままでした。

内気で目立たない存在だった私は、あまり先生方と話すことのない生徒であったように思います。でも、なぜか体育は大好きで、小柄な先生のきびきびした動きやしぐさは、体育の先生として私の心の中に焼きついていました。

一緒に仕事をさせていただくようになって、先生の明るく活力あふれる姿勢だけでなく、自然の野花をさりげなく飾られる女性としての優しさや温かさも学ばせていただきました。



今、保健室前の掲示板にある「姿勢人形」は、先生が水泳指導で使われた教材をヒントに工夫して作ったものです。子供たちがうれしそうにその人形を動かし、姿勢を正してくれる姿を見るたびに、先生の温かな笑顔が思い出されます。先生の温かさと優しさを糧に、これからも教員生活を続けていきたいと思います。

少女のよさは今もなお

前城南小学校教頭
兵藤　鋭子

「先生、鶴田です。附中で教えていただいた享子です。」

赴任で緊張感いっぱいの私に明るい声が飛んできました。じっと見つめる大きな目……思い出しました。ダンスの授業の時、友達の意見に納得いくまで耳を傾けていた少女。弱音を吐かず持久走で頑張り通した少女。その少女との再会が子育て真っ最中のお母さん先生、中村先生とは驚きました。当時の自分を見る思いでした。そしてこの再会で貴女のよさを再認識しました。

生平小学校は県鳥獣保護地区にあり、野生生物保護活動が活発でした。その指導の原動力は中村先生と聞き、恵まれた出会いに感謝しました。養護教諭としての校内巡視に同行させてもらい、野鳥観察の仕方やその手だて、掲示の意味等毎日少しずつ伝授してもらいました。窓越しにルリ色のカケスを見つけたとき、声を殺して喜び合いましたね。十六年前の少女のよさが子供や自然を大切にする教師として生き続けていることに感激したことを今も覚えています。

冬鳥の季節到来。保健室を訪れる子供たちや二人のお子さんに野鳥観察の楽しさを伝え、中村先生らしく活躍されることを祈っています。

お知らせ

◆岡崎市教育委員会名簿

委員長　仲井　さち
同職務代理者　杉山　光
委員　杉浦　壽康
委員　鈴木　聰一
教育長　伊豫田壽夫

◆第五十三回東海吹奏楽コンクール

・A編成の部
金賞　竜海中学校
・B編成の部
銅賞　美川中学校

◆第五十一回中部合唱コンクール

金賞　六ツ美北中学校

◆平成十年度FBC県秋花壇中央審査

優良賞　六ツ美中部小学校

◆平成十年度全国中学校体育大会

二年千五百m　二位　東海中　川野　竜男
百mハードル　四位　矢北中　堀　真弓
一年百m　六位　美川中　酒井シェリコ
走り高跳び　七位　矢北中　本田　唯

◆フードメッセイン岡崎'98料理コンテスト

市長賞　城北中二年　村松香保里
市議会議長賞　矢作北中二年　野村　有希
市教育委員会賞　葵　中三年　増本　理絵

◆第十七回中学生非行防止ポスターコンクール

県警本部長賞　岩津中三年　小澤　直美

◆第七回東海地区読書ゆうびんコンテスト

優秀賞
緑丘小一年　内藤　謙吾

◆第四十一回中部吹奏楽コンクール

準優勝　矢作中学校

◆四十八回全国小中学校作文コンクール

優秀賞
緑丘小一年　江本　卓司
緑丘小五年　山本裕美子
葵　中三年　高橋　佳奈

第42回愛知県統計グラフコンクール

小学校1年～3年の部　金賞

上野山　輝	三島小	2年
長坂　裕美	三島小	3年
八田　壮史	三島小	3年
南谷　唯	三島小	3年

小学校4年～6年の部　金賞

大久保　朋美 竹内　美帆	三島小	4年
酒井　辰弥	竜美丘小	5年
松井　友里恵 朝倉　由香理	竜美丘小	5年
荒川　俊介	竜美丘小	6年
荒川　浩介	竜美丘小	4年
吉見ナタリー花恵	三島小	6年

中学生の部　金賞

見並　良治	竜海中	1年
櫻井　あお衣	岩津中	2年
岩瀬　史佑子	岩津中	3年
林　幸菜	岩津中	3年
平野　晶子	竜南中	3年

パソコンの部

樋田　麻里	生平小	4年
深津　菜美子 川合　美奈子	城北中	1年
坂本　恵 山崎　裕子	城北中	1年
東脇　悠 神取　咲子	城北中	3年

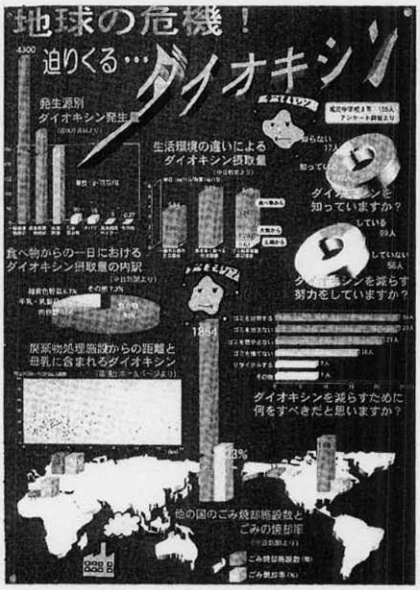
第37回岡崎市小学校陸上競技大会

総合	優勝	2位	3位	4位	5位	6位
男子	福岡	六名	緑丘	北野	城南	上地
女子	岡崎	福岡	大樹寺	矢作南	六ツ美西	広幡

	種目	選手名	校名	記録
男子優勝	5年100m	坂口　大	岩津	14"2
	100m	小柳　龍太	大門	13"6
	80mH	内田　雄基	連尺	12"9
	1000m	鵜田　武丸	本宿	3'12"7
	走り幅跳び	田口　健司	城南	4m70
	走り高跳び	吉開　裕祐	矢作西	1m35
	ソフトボール投げ	伊奈　大介	北野	62m80
	400mR	兵藤・杉浦 林・山田	根石	55"7
女子優勝	5年100m	濱井　梨沙	北野	15"0
	100m	日下部　かおり	矢作西	14"3
	80mH	佐藤　真理子	広幡	13"8
	1000m	幸田　理沙	六ツ美西	3'26"3
	走り幅跳び	稲垣　春菜	福岡	4m00
	走り高跳び	伊與田　あや	矢作北	1m33
	ソフトボール投げ	米岡　真由美	梅園	54m82
	400mR	市川・安藤 佐野・鈴木	岡崎	58"7

第31回岡崎市中学校新人総合体育大会

種目	性	優勝	2位	3位
陸上競技	男	六ツ美北	矢作	六ツ美
	女	矢作北	竜海	六ツ美北
バスケットボール	男	城北	矢作北	甲山　矢作
	女	南	北	葵　六ツ美北
バレーボール	男	六ツ美	矢作北	南　矢作
	女	六ツ美	東海	矢作　矢作北
ソフトテニス	男	常磐	新香山	六ツ美北　竜海
	女	矢作	甲山	竜南　河合
卓球	男	六ツ美北	甲山	竜海　矢作
	女	竜海	南	常磐　矢作
体操	男	甲山	竜海	
	女	竜海	東海	矢作北
新体操	女	甲山	南	竜海
剣道	男	矢作	東海	福岡　竜海
	女	六ツ美北	東海	福岡　南
ハンドボール	男	竜南	六ツ美	城北　美川
	女	六ツ美北	竜南	美川　葵
軟式野球	男	岩津	竜南	六ツ美　竜海
ソフトボール	女	城北	矢作	矢作北　南
柔道	男	甲山	竜南	矢作　新香山
サッカー	男	南	甲山	竜南　六ツ美北
水泳	男	竜南	竜海	六ツ美
	女	竜海	甲山	葵



▲愛知県統計グラフコンクール金賞受賞作品

▶

フォト・ヒストリー 岡崎の教育

土俵開き

（昭和57年）

写真提供　竜美丘小

昭和五十七年七月十九日に大相撲高砂部屋力士ら二十名を招いて、盛大に土俵開きが行われた。朝潮・高見山・富士桜など当時人気幕内力士が来校し、子供たちと初稽古（写真）をし、土俵開きを祝った。

この相撲場は子供の心を磨き、技を学び、体を鍛えるため、また、礼に始まり、礼に終わる日本古来の礼儀を学ぶために学区の方々の協力によって作られたものである。

以来、竜美っ子の秋場所は続けられている。

・表紙写真　井田小　鈴木茂幸
・カット　矢作中　志賀孝人

オアシス

オゾン、環境ホルモンがニュースに登場する。施設設備を一新した岡崎市の環境調査センターは、まさに地球の見張り番。PPMからPPTへと微少含有量の調査単位も一兆分の一の世界だ。地球が泣いているというが、その涙を見つめている人がいるのである。

シリウスの青白い光が、冬の夜空にひときわ目立つ。小学生のころ、流れ星に願いをかけたことを思い出す。今の子供たちは、寒天を割る天の川を見たことがあるのだろうか。

今月はふたご座とこぐま座の流星群が見られる。子供たちは何を願うのか。

「愛町心」という言葉があるとすれば、それは不吹の長寿会の人たちの心意気を示すのではないだろうか。「おらが町」の歴史を知りたいという思いから始まった長寿会の活動は、子供たちやその親までも巻き込み、老人パワーのみなぎる元気な町作りへと発展した。

好きな力士の胸を目掛けて、夢中で飛び込んでいった子供たち、それを見ている人々。写真の中から子供たちや人々の心踊る気持ちが伝わってくる。土俵開き以来、この相撲場は十六年間変わらずに、子供たちを見守り続けている。

この本を

＊よもやま日記　中根　鎮夫
毎日新聞名古屋開発株式会社　¥1429

＊花へんろ風信帖　早坂　暁
新潮社　¥1500

＊思春期のこころが壊れるとき　山崖　俊子
主婦の友社　¥1300

＊赤い手　板東　英二
青山出版社　¥1500

＊触ることから始めよう　佐藤　忠良
¥1600

子供たちが作文を書くとき，低学年では，五感を使うことを大切にする。物を見る目，感じる心は五感を通して育っていく。その五感の視覚，触覚，臭覚，味覚，聴覚のどれが欠けても，我々が生きていく上で不便である。

彫刻家の筆者は，この感覚の中の触覚だけは，古代人に比べて衰えており，今の子供が直面しているさまざまな問題にもつながっていると説く。85歳，シベリア抑留など経験豊富な筆者の説は重く，深い。